

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十五年四月度 入選句 (投稿総数千五百二十句・一般投句数八百七十六句)

特選 選者 名和永山

共に杖突きて散歩や花三分 大垣市 竹中輝美子

「共に杖」きつとつれ合いでしょうね。お互いに高齢になり杖を共にしながらの散歩でしょう。どんな会話をされているのでしょうか。その情景が目には浮かびます。その情景に下五の「花三分」がつながり、高齢のお二人の「まだまだ、元氣！」という声が聞こえてきそうですね。「花三分」はこれからとんとん花をつけ、満開になるのですから。元氣をもらいました。

ふらここや何時になつても出ぬ答 養老郡養老町 田中紫香

「ふらここ」「つまり」「ふらんこ」がいつまでも揺れているのです。前にゆすって、あるところまで行けば、また戻ってくる。悩んでいる作者の心の動きでもあるのでしょうか。いつまでたつても答えが出せぬ、「ふらんこ」は何時止まるのでしょうか？そんな心境が読み取れますね。

水底の石の揺らぎて水温む 大垣市 矢橋郁子

水の都「大垣」を流れる水門川も綺麗な水になりました。川底がよく見えます。だんだん気温が上がって、水温も上昇します。そんなことにより川底ががゆらゆら揺れているように見えます。と同様に川底の石も揺れ動きます。きつと作者の心も、春への期待で揺れ動いていることでしょう。

秀逸

鯀洗う亀の子束子水温む 大垣市 横井義明

ためらいもなく一気に花開く 大垣市 本郷陽子

春愁のけはひ小面宮の杜 大垣市 白井秀子

薄紅の桜舞ふあの人何処に 大垣市 菅谷美樹

なで牛の鼻の光れり辛夷咲く 三重県津市 濱口よし子

国難の真只中の猫の恋 名古屋市昭和区 舘野茂子

轉りを聞き分けている大樹かな 大垣市 森芳昭

土をもる左管の如きつばくらめ 大垣市 藤井正勝

日曜は便りの来ぬ日蝶来る日 福井県福井市 三ツ山ひろし

オレンジのクレイン春の空つかむ 大阪府豊中市 中谷麗夢

入選

本陣の土蔵真白き春の陽に	大垣市	秋山	くに子
源流は白山ならん雪解川	大垣市	森川	きよ子
児が吹けば空にきらめくしゃぼん玉	大垣市	川瀬	喜梅古
畑耕しひと鍬ごとの土ひかる	不破郡垂井町	竹嶋	富美子
繰返す未熟な囀り聴きにけり	大垣市	山田	千歌子
流れゆく水も落花もかぎりなし	三重県鈴鹿市	小林	年行
見上げをり振り返りては見る桜	大垣市	片山	洋子
見てあかぬすみれの花と子の寝顔	大垣市	棚橋	みさを
転た寝に何が何して春の午後	大垣市	多和田	一徳
春泥の靴を並べて遊びごぞ	不破郡垂井町	児玉	信子

入選

介護する人のぬくもり春一日	大垣市	川口	千代子
児の声に訝応へて山笑ふ	山県市	浅野	比奈子
登校の列の乱れて春一番	安人郡神戸町	高橋	日出美
今日の事今日で終れり朧月	養老郡養老町	宮沢	志きぶ
干し物の陽の匂い抱く春隣	大垣市	永井	田鶴子
舟下るたびに波たつ花筏	愛知県豊明市	近藤	美稲
明るさを天へひろげて楠若葉	大垣市	高木	治子
春の虹まだ晩年の上り坂	福井県福井市	三ツ山	しげこ
終の地の紙子の肩や花吹雪	東京都中央区	久塚	謙一
郷の駅降りれば早やも祭り笛	神奈川県藤沢市	門坂	螢

選者吟

山ざくら姫の衣のわすれもの

永山